

山陰門推協会報

第8号

ともしび

発行
 浄土真宗本願寺派・山陰教区
 門徒推進員連絡協議会
 代表者 松浦 靖

事務局住所
 〒690-0002 松江市大正町443-1
 本願寺山陰会館内



内容

- 2頁〜5頁…寄稿、新門徒推進員紹介
- 6頁〜7頁…新会員の声
- 8頁…同朋の広場、組の活動

第四連区門徒推進員研修協議会を開催して

山陰教区門徒推進員連絡協議会 会長 松浦 靖

先般、第四連区門徒推進員連絡協議会の研修会を松江一畑ホテルで百四十名の参加を得て、九月二十四、二十五日に開催いたしました。四州、備後、安芸、山口教区より六十九名と山陰教区から六十七名の参加で当教区職員、本山職員とが四名でありました。

開催するに当たりご本山からの要綱に従い、理事会をたびたび開催して、実施要綱を定め実行委員を六名選出、詳細の事項については実行委員会で決議し実施致しました。ご協力頂いた理事、実行委員、教区職員、及び門徒推進員の皆様にあつくお礼申し上げます。

さて、第一日目は開会式終了後「基幹運動総合基本計画について」の講題で、中央基幹運動推進相談員小林義教氏より新基幹運動総合計画の講義があり、判りやすく妙好人の実例と親鸞聖人七百五十回大遠忌についての消息より、相互に現在までの活動の点検と見直しを行い、成果や課題を確認することを通して、門徒推進員としての自覚を深め、情報の共有をはかり、社会に応える活動の方向性と実践についての模索・研鑽し、連帯の意識をたかめながら、ともに基幹運動推進のあゆみを進めることを、

再確認するものであります。

事例報告・体験発表「私の取り組み」を四名の方に発表して頂きました。自分が苦しみ悩んだ事を話することで、皆さんに受け入れられたという報告でした。八班に別れ(一)「講義、体験発表を受けて」(二)「み教えに学ぶ」

(三)「山陰の妙好人に学ぶ」の問いで、二時間話し合いました。夕食懇親会で語り合い、カラオケ等で親交をはかり、最後に本願寺音頭を輪になり踊って、手をつなぎ親交を深めました。第二日目は話し合い法座の報告で始まり、一人七分間で話し合ったことを発表して頂きました。八班とも妙好人を取り上げた話し合いの内容でした。聞法でみ教えを学び、ともに阿弥陀如来さまを自分の目線に合わせ、人間観と感性を持たれた人達で、み教えに学ばれた多くの「宗教詩」を作り実行・実践された人達で、私たちも妙好人に学ぶことで、真の念仏者に成らして頂くと言うことでした。全体協議会では講師先生、体験発表者と討論して意見を交換致しました。最後に講師先生にまとめてもらい、次回開催担当・備後教区代表に引継ぎ閉会致しました。

寄稿

共に歩もう
教務所長挨拶



ての消息」がご発布になりま
した。その中、

親鸞聖人によつて開かれた
浄土真宗は、あらゆる人び
とが、阿弥陀如来の本願力
によつて、往生成仏し、こ
の世に還つて迷えるものを
救うためにはたらくという
教えです。南無阿弥陀仏の
名号を聞信するところに往
生が定まり、報恩感謝の思
いから、如来のお徳を讃え
る称名念仏の日々を過ごさ
せていただくのです。

とお諭しをいただいております。こ
のお言葉をとおして、スローガンを味
わつて見たいと思います。

「われ超世の願を建つ、かならず無上
道に至らん」(註釈版聖典 24) と重ね
て誓われた、仏の願いのおめあては、私
一人にかけられたものであったと気づか
されます時、「いのち」は、いきとしい
けるもの全てにかけられたものであつた
と、最も深く味あわされることです。

親鸞聖人のお言葉をいただきますと、
「一切衆生悉有仏性といふなり」(註釈
版聖典 236) です。

これらをおして、念仏者につけら
れた期待とは、基幹運動(門信徒会運
動・同朋運動)を積極的に展開するこ
ろにあります。私自信が、浄土真宗
のみ教えに遇い、そのみ教えを一人
でも多くの方に、伝えていく念仏者とな
る(門信徒会運動)、社会にあるすべて
の差別を、み教えをおして解決する
(同朋運動) 行動者となることを、ご門
主のお言葉をとおして、味あわせてい
ただいたことです。 合掌

私にかけられた責務

教務所長

三 明 浄 信

今日の社会状況を見ます時、「少子・
高齢化」「青少年を取り巻く諸問題、自
死」など、さまざまな問題を抱えてお
り、念仏者につけられた期待は、大
なるものがあると自負しております。

宗門の基幹運動のスローガン「念仏
の声を 世界に 子や孫に」が掲げら
れ、四半世紀にわたつて推し進められ
てきました。時代の変遷と更なる運動
を展開する願いから、平成十八年度よ
り「ともに いのち かがやく 世界
へ」と変更になりました。

此の度のスローガンの味わい、推進
について、各自各自の立場で、一人
でも多くの方に伝えていかれることを切
に願うものです。

昨年(平成十八年度)の一月九日勤修の「御正忌報恩
講法要」初連夜に引き続き、ご門主よ
り「親鸞聖人七百五十回大遠忌につい

新しく門徒推進員に
なられた方々

新しく門徒推進員になられた方々を紹介します。

質 問

- ①氏名 (ふりがな)
 - ②所属寺
 - ③門徒推進員としての決意
 - ④門徒推進としての現在の活動
- ※掲載順は登録番号順

登録番号19429

- ①伊藤悠子 (いとうゆうこ)
- ②出雲組覚専寺
- ③聴聞に励みたいと思います。
- ④お寺の行事に積極的に参加。

登録番号19430

- ①青木良子 (あおきよしこ)
- ②出雲組了玄寺
- ③一人でも多くの仲間(心)の和を広げて行く。
- ④お寺の行事に参加して、お手伝いする。案内状の配布。

登録番号19431

- ①佐藤俊子 (さとうとしこ)
- ②出雲組了玄寺
- ③ご縁を沢山つくり、お聴聞に励みたい。
- ④仏社会や研修会等に都合のつく限り出席する。

登録番号19432

- ①秦 英夫 (はだひでお)
- ②出雲組了玄寺
- ③研修会等私自身の知識を高め門徒拡大につなげたい。
- ④当面本堂改築等の手伝で多くの門徒様との交流を計りたい。

登録番号19427

- ①上田覚 (うえださとる)
- ②出雲組宗玄寺
- ③お寺の行事、研修会等に積極的に参加する。
得た知識を家族を含め知人、友人等の対話の中に取り入れる。
- ④地区委員、仏社会員として活動している。

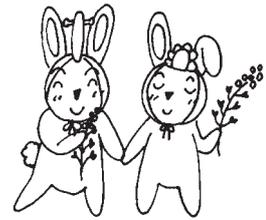
登録番号19428

- ①須田房吉 (すだふさきち)
- ②出雲組宗玄寺
- ③教区、組、寺の行事等に積極的に参加出席する。
- ④宗玄寺仏社会役員として会発展にお手伝い。

寄稿

共に歩もう

僧侶の声



宗祖七百五十回会
(大遠忌)法要に思う

浜田組 組長

猪口彰也

浜田組では今年七月十九日ご消息披露・記念法座を実施いたしました。その時、ある代表の方がこの様な質問をされました。

「七〇〇回会の、あの法要から五〇年を経過しようとしている今、そのときも同じように宗門の長期振興計画が出されて実施されたと思うが、果たしてその成果は如何なものであったのか、一つひとつ検証し、問題点を見出し、その反省と今後の課題をしっかりと見据えることが先ず大事だと思いますが、どうでしょうか……」

その意見者の思いを受けて、私なりに意見を述べてみたい。以下は浜

田組総代研修会の案内状に記載したものです。

「教団の制度機構は江戸時代から受け継がれた封建的な残渣がこびりついている。本山と末寺、寺院と門徒といった関係は江戸幕府の封建支配を強くするため、現存する教団は、そうした

機構を温存し、それによって教団の護持経営を図ろうとしていると言え

る。しかし、教団の改革は単に制度機構を改革すれば事足りるという性格のものではない。先ず私たちは信仰の本来に立ち返り、教団の存在意義を省みることから始めなければならぬと思います。その心は正に、このような教団の現状と慣れ合うことのできない心、その心のみが教団の現実の只中で教団を問い、それを問い尽くすこと

において教団の本来的存在意義が明らかになり、それと同時に教団人として目覚めた人間になることであつた……」



登録番号19436

- ①児玉勝弘(こだまかつひろ)
- ②出雲組成福寺
- ③お寺の諸行事に進んで参加すること。そこで聴聞を重ねみ教えをよりどころに忠実に歩みたい。
- ④総代として、仏社会員として、そして門徒推進委員として、いろいろ関わり諸活動に参加している。

登録番号19437

- ①星野幸代(ほしのさちよ)
- ②松江組明宗寺
- ③自覚を持ってできることから努力します。
- ④先輩推進員のお手伝いを時々しています。

登録番号19438

- ①池淵美喜子(いけぶちみきこ)
- ②松江組真光寺
- ③自覚して聴聞を重ねる。
- ④寺院の年間活動に参加する。

登録番号19439

- ①清水慧子(しみずけいこ)
- ②松江組真光寺
- ③素直に自分を見つめられるよう聴聞を重ねたい。
- ④役員としてお寺の行事に参加、協力するようにしている。

登録番号19433

- ①曾田誠治(そたせいじ)
- ②出雲組妙壽寺
- ③門徒としてなるほどと周囲の人に思われる様な日常行動に努めたい。
- ④報恩講等の寺の行事、奉仕活動や研修会へ可能な限り参加する様に心がけている。

登録番号19434

- ①石飛克己(いしとびかつみ)
- ②出雲組成福寺
- ③くらしの中に浄土真宗があるようになりたい。
- ④お寺の運動委員や教化推進委員としての役割をいただいている。

登録番号19435

- ①児玉昭雄(こだまあきお)
- ②出雲組成副寺
- ③私は、なかまと一緒に精一杯生きることを誓います。
- ④成副寺の活動(運営委員・仏社会・寺子屋・行事等)に積極的に参加します。

寄稿

共に歩もう
教化団体からの声

真宗門徒の自殺対策

山陰教区保育連盟 監事

朝枝実成

日本では、ここ八年連続して、一年間の自殺者数が、三万人を軽く超えているそうです。これは、十六、十七分間に一人が自殺しているという計算になります。これに加えて、昨秋は、中学生や高校生の自殺が連続して発生しました。

経済力世界第二位まで上りつめたという豊かな日本社会の中で、こんなにオビタダしい自殺者が出ていることは信じられません。夢ではなく事実なのです。私たちは、地獄のただ中にいるといえます。現代社会は、まさしく「五濁悪世」そのものです。

しかし、このようなひどい世界だからこそ、私たち一人ひとりに

向かって、決して絶望せず、希望を持ち強く生きぬいて欲しい、そのような温かな願いをいっそう強くかけておられるのが、アミダ如来のご本願なのではないでしょうか。

そこで、ご本願の立場から、私なりの自殺対策を申し上げてみたいのです。それは家庭内での勤行をすることです。必ず朝夕の食事前にお仏壇の前で一家揃って勤行をするよう努力するのが、朝が慌ただしくて無理だというなら、夕食時だけでもかまいません。

個人差はありますが、ゆっくり読めば正信偈・和讃のお勤めを通じ、十八分間は辛抱して必ずや自殺を回避するというわけです。

現代の忙しい生活は、私たちから忍耐力、そして、人生をじっくり考える想像力すらも奪い去りました。何のタメライもなく死にたくて私たちに、「どんなに死にたくても、正信偈・和讃の十八分間は我慢してください。私はその待つ力と時間をあげましょう」と、このように親鸞様の声が聞こえてくるようです。

今すぐ家庭内勤行に取りかかりましょう。

登録番号19444

- ①伊藤和子 (いとうかずこ)
- ②松江組光徳寺
- ③お寺の諸行事に率先して参加して聴聞を重ね、出来るだけたくさん仲間作りをします。
- ④所属寺としては、私が初めての推進員なので、諸行事に参加して、私に出来る事をお手伝いさせていただきます。

登録番号19445

- ①伊藤克己 (いとうかつみ)
- ②出雲組妙壽寺
- ③念仏を喜びの中に受け入れ門徒の皆様をさそい聴聞の縁に参詣します。
- ④仏社会員

登録番号19446

- ①北脇 進 (きたわきすすむ)
- ②出雲組妙壽寺
- ③同朋運動に積極的に参加します。
- ④門徒を誘って色々な行事に参加すること。

登録番号19447

- ①矢野好春 (やのよしはる)
- ②飯石南組西蓮坊
- ③私は皆さんが集まりやすい開かれたお寺にしようと思います。
- ④本願寺新報の購読を始めました。そして門信徒手帳を近隣の門信徒の皆様へさしあげました。

登録番号19440

- ①昌子典子 (しょうじのりこ)
- ②松江組真光寺
- ③お寺の行事に積極的に参加し、仏婦活動に励みたいと思います。
- ④お寺の行事のお手伝いをしています。(写真班)

登録番号19441

- ①園山律子 (そのやまりつこ)
- ②松江組真光寺
- ③聴聞に努めます。
- ④婦人会役員をしています。

登録番号19442

- ①竹下寿子 (たけしたひさこ)
- ②松江組真光寺
- ③聴聞につとめ、ルンビニ日曜学校のお手伝いをします。
- ④日曜学校のお手伝いと聴聞する機会があれば進んで会に出るようにしています。

登録番号19443

- ①谷本昭美 (たにもとてるみ)
- ②松江組真光寺
- ③仏婦役員として精一杯努めます。
- ④仏婦役員の一員として門徒の皆様方と一緒に諸々の行事に参加します。

寄稿

私の活動

袖すりあうも他生の縁

神門組 長楽寺

上田克夫

私たちの地域の公民館をコミュニティーセンターとっています。略してコミセンです。コミセンには、それぞれの目的によって部が設けられ、その部に所属して研修会が実施されています。

私は「人権」の部会に所属して同和問題・差別の問題。男女共同参画の問題の研修会に参加しています。ところが、ここで議論されることは、差別の現実を見据えてどうするか、どうしなければならぬのか核心に触れた議論にならないもどかしさを感じています。かてて加えて、幼児の虐待や、いじめ、いじめによる自殺など最悪という報道がなされています。また、政治家の腐敗などおぞましいことばかりです。

とかく人間は自分勝手、自分の都合で毎日毎日を生きています。損か得か自分のものさしによる生き方が私たちの日常のすがたであります。すなわち人間中心のおごりが真実を

無視して人間差別といった問題を引き起こしてきたということです。

親鸞聖人の教えの中に「一切の有情はみなもつて世々生々の父母兄弟なり」とお示しになっているように、あらゆるものは、全て繋がりあっているのちだから、みな等しく救うべき人ばかりであるとお示しいたできました。

コミセンで人権関係に関わって、あらためて、「我執は人間の心の根深いところで払拭できない宿業である」とうかがいました。生かされて生きているそれぞれのいのちを大事と思ひ、尊厳の心が人権問題の解決に繋がることだと思います。

六月神門組では、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要お持ち受けと門主さまの消息披露が厳修された際の記念法話に、「今私たちがいることは両親がいるからで、その親も両親がいて生れた。この関係をずっと遡ると十代で千二十四人、二十七代遡ると一億三千万人になる、日本の国民全体が親子の縁に繋がることになるということです。「袖すりあうも他生の縁」。皆

が御同朋であるということですから。我執にとらわれる凡夫であることに気づかされます。

合掌



登録番号19452

- ①高橋慶子(たかはしけいこ)
- ②大田組常見寺
- ③お寺の諸行事、聴聞に誘いの声掛けを積極的にする。
- ④毎月例会の参加及び諸行事の手伝い。

登録番号19453

- ①高橋美也子(たかはしみやこ)
- ②大田組常見寺
- ③聴聞に励みます。
- ④常見寺総代の一員として、門徒の皆様と共に御参りの気持ちを働きかけている。仏婦コーラスの指導をする中で御参りをする。

登録番号19454

- ①原 勢智子(はらせちこ)
- ②松江組明宗寺
- ③中央研修を受講して責任の重さを感じています。先輩を見習い自分の出来る範囲で協力し頑張りたいと思います。
- ④法話時の準備、後片づけ、清掃(仏婦人会等)、永代経法要、報恩請法要の案内状配り。

登録番号19448

- ①曾田武夫(そたたけお)
- ②出雲組妙壽寺
- ③微力ながら、発展のため尽力したい。
- ④まず、自己の研鑽からはじめたい。

登録番号19449

- ①曾田時夫(そたときお)
- ②出雲組妙壽寺
- ③皆様のお手伝いが少しでも出来る様と思っています。
- ④なし

登録番号19450

- ①錦織 愧(にしこおりあきら)
- ②出雲組宗玄寺
- ③門徒推進員として、中央教修を受けさせて頂き感謝しております。今後は、地域の皆様とお寺の橋渡しとして、何かお役にたてれば幸いであります。

登録番号19451

- ①石橋由美子(いしばしゆみこ)
- ②大田組常見寺
- ③寺の活動には積極的に参加し、朋の輪を広げ、共に支えあっている報恩感謝の心で歩ませていただこうと思います。
- ④寺の行事、研修会、講座活動、婦人会会動、日曜学校等に楽しくお手伝いをさせていただいています。

寄稿

新会員の声



中央教修を受けて思うこと

出雲組 了玄寺

青木良子

第一七〇回中央教修を修了し、一年が過ぎた先日、先輩の門徒推進員様より、感想の依頼があり困りました。文章化するのが苦手の私です。受講後、色々な用事に追われた毎日でしたが、三泊四日のハードスケジュールの中で学ばせて頂いた事を参考に頑張ってきました。住職様と推進員様より受講をすすめて頂きましたが、最初は私のような人間にと抵抗がありました。中央教修中、有難い御縁を頂いた事に気付かせていただき、感謝の心で一杯になりました。有難うございました。全国から参集された人達と友達になり、相談、話し合いも出来、仲間の輪を広げて行

きたいと思っています。お寺での行事には都合のつく限り参加させて頂き、一人でも多くの仲間の輪を心こめて広げて行きたいと思っています。最後になりましたが、今回の受講の御任職様、坊守様、先輩の方々、家族、周囲の皆様方に、多大な御協力を頂きました事、感謝申し上げます。毎日朝夕のおつとめも今まで通り礼拝させて頂きます。有難うございました。

出合いに感謝

松江組 真光寺

清水慧子

夫が逝き、にわか門徒になった私は、勧められるまま中央教修に参加した。同じ寺から、六名が参加したのも心強かった。その後、仲間の絆が深まったことは、私にとって大きな財産となった。

三泊四日の身の引き締まる経験は、本当に有り難く、忘れることはないだろう。初めて出会ったお仲間と話し合い法座を繰り返す中で得たものは多く、「生かされている自分に感謝しています」の穏やかな発言に、自分の私の強さを大いに反省させられ

た。私の気負いを見透かしたように、最終日に「緊張した表情が和らぎ、これで真宗入門ができましたね」と班の講師先生から声をかけられた。秋の第四連区研修会の折、先生に再会できたのも嬉しかったし、お仕事を一緒にした方々や泊りが同部屋となった人々と親しく交わることができたのも、志が同じ方向を向いているからだなど思えた。

門徒推進員になって思うこと

松江組 光徳寺

伊藤和子

平成十八年二月に中央教修を修了し、一年になるうとしています。中央教修受講の年齢制限が六十五才、連研までは終えたものの思い迷っている時の先輩推進員の方の声掛けが受講のきっかけでした。朝六時三十分からの晨朝参拝に始まり、三日目の決意表明式では厳肅な雰囲気のか大変緊張した事、表明式を終えホッとして退場すると三日間お世話になった先生方が全員で迎えて下さっ

とても感激した事など、私にとつて忘れる事の出来ない貴重な体験となりました。所属寺では私が始めての推進員なので、誓った事を心に留め、率先して諸行事に参加し、続いて中央教修を受けられる仲間作りに、少しでも役立つ事が出来ればと聴聞にお誘いしています。

私も一年遅かったら年齢制限でご縁をいただけなかったことを思うと、後押しして下さった先輩推進員の方に感謝しなければなりません。日々地域、職場と忙しいなか、ややもすると当初の感激が薄れそうな時もあります。まず聴聞を続け推進員としての心構えを再認識し、生活の中に仏法が生かされる様に努力したいと思っています。

中央研修より帰りて

大田組 常見寺

高橋美也子

つい先日、私のお寺「常見寺」の報恩講で私は大きな衝撃を受けました。聴聞の中で「身の事実」を説かれた講師様の声に、アッと声を吞んできました。

これまで、心豊かに・心を癒す等

我が心を操ることによって安心を得ようとしていた私の有り様に気付かされたのです。

第一七六回の中央研修に参加させていただいた際の決意表明式において私は、…聴聞に励みます…と述べました。多くの法座、多くの人々、充実した時間等との出会いそれ等の中に身を置いて、これしかないと思えたからです。この気付きは、私にとって大きな大きな喜びとなりました。

自分を変えるということの困難。変えなければならぬ自分がある。これまでにご住職から幾度も説かれているのに我が身にいただけなかったのですが、中央研修以後、数度の聴聞は、私のためにただけるような気が生じはじめました。
子や孫にすら働きかけることの非力な推進員の私ですが、一人でも多くの人に「聴聞しましょう」と声がけしたいと励んでいます。

第七十七回

出雲組 覚専寺

伊藤 悠子

「連研を受けませんか」という誘

いに何も知らない私は「はい、受けさせて下さい」と即答。昨年(二〇〇五年)一月から六月の半年間全くの余裕もないまま無我夢中の内に連研は終わりました。チャンスをいただいたことへの感謝、心からの喜び、お寺との距離がぐっと近くなったと感じました。これが「ご縁」ということなのでしょう。その余勢をかけて中央研修に、こんなことで大丈夫だろうか。と不安のつる中、主人から励まされ、背中を押してもらったの上洛でした。

西本願寺の門をくぐると北は北海道から南は鹿児島まで、皆さんかなりの勉強をされ、お徳を積んでのご参加の様子を感じ、「ああどうしよう、逃げだす訳にもいかない、皆さんにくっついて行くしかないんだ」と心にきめての三泊四日間でした。晨朝参拝の後のさわやかさは私の不安を解きほぐし目一杯のカリキュラムを御講師の方々、育成研修部の皆様の温かいお導きの中、何とか修了させていただき本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

厳かな雰囲気の中で胸を張りつめての決意表明式。会場を出るヤスタップの方々のおめでとうございませす「われんばかりの拍手、思わず感激で涙がとまりませんでした。

大きな仏縁をいただいたからこそ感動だと思いました。いつまでもこの気持ちを忘れずに聴聞に励みたいと思っています。

本山中央研修に参加して

出雲組 妙壽寺

北脇 進

父の他界と私の還暦を節目に、自分を見詰め直す良い機会と考え中央研修に参加しました。北海道から鹿児島まで四十名余りの皆様と共に、四日間法座を中心に共通のテーマで話し合いました。それは日常の仕事忘れ、新鮮な感動を覚えました。中でも一番印象深く今も心に残るのは、厳かで薄暗いローソクの光での決意表明式でした。そこで私は阿弥陀様に、同朋運動に積極的に参加することを誓いし、貴重な体験を終える事が出来ました。ご指導頂いた講師の方々に感謝申し上げます。今、今後努めてお寺参りを重ね、聴聞に勤め、門徒の方々との交流を通し、お寺と家庭、地域との絆を作りあげていきます。今後とも、ご指導をお願い致します。

会員寄稿

絆の大切さを特に思う

飯石北組 常信寺

永島 長徳

飯石北組(十ヶ寺)の門徒推進員は、現在の広澤会長(地域が離れて居るために三ブロック交代で任期二年)を筆頭に合計二十五名(男二十一名・女四名)の会員で活動しています。

私自身はなるべく寺の行事を通して出向く様に心掛け、お聴聞をいただく中で阿弥陀様のご縁に逢わせて頂き、心の勉強に努めています。

最近の時勢は特に若年層に多い命の大切さを軽視し、兎角悲惨な事件が日々報道されますが、子供の時から浄土真宗を見たり聞いたりする機会を多く作り与える必要性を感じるのは、私一人では無く多くの方々も思っておられる事と存じます。

他の信者には若い人が多くしかも親子で三日間位の参加を耳にする時に、改めて浄土真宗は親子は勿論友達・一般社会での絆を更に強め将来の人間形成の一助に成りはしないだろうかと思ひ、南無阿弥陀仏を称える事をより多くの方々と出来る様に望んでいます。

同朋の広場

共に語ろう

共に生命かがやく世界
 邑智門徒推進員協議会長
 高橋良實

今日あらゆる報道で話題となつてい
 るのが生命の問題ではないでしょうか。
 イジメ、自殺、親と子の関係。私等、
 戦前生れの者としては考えられないこ
 とで何か世の中が変化して来ているの
 ではないかと思うのであります。我々
 門徒は聖人のおみ法を仰ぐ者としてま
 して、どう対処したらと思うのでありま
 す。先ず生命の尊厳ということを考え
 なくてはと思います。浄土真宗のみ教
 えに遇う者は即ち現生正定聚の教えで
 す。これは私が仏に成らせて頂くので
 あり、往生成仏のご縁を如来様より賜
 わることです。だからそのままのお救
 いに預かる事であり、それには聴聞より
 他にはありません。生命ある者はお互
 いに認め合い助け合い二度とない人生
 を精一杯歩ませて頂くのであります。こ
 の世に生を受けご縁に恵まれたことを
 大切に聖人のみ教えに信順し聴聞を重
 ね、自信教人信、私が門信して喜びを
 他の人にも分ち生命の尊さを話し、今
 日一日と念仏申しつつ感謝申すばかり
 です。ともにいのちかがやく世界をスロ
 ーガンに、念仏相続するのが我々門徒
 推進員のつとめと思ひます。 合掌

組の活動

出雲組門推教の活動

出雲組 妙壽寺 坂本光弘

出雲組は、今年度十四ヶ寺の内
 十ヶ寺で、会員が百八十三名で活
 動を行っています。事業について
 は、四月二十九日に斐川町の月光
 寺に於いて、総会及び研修会を行
 い本年度の活動計画が承認され事
 業を実施しております。また、この
 時の研修会は、月光寺の住職にお
 願ひして、「浄土真宗の仏教」と題
 して研修を深めました。十月十九
 日には斐川町の西念寺に於いて、二
 回目の研修会を、昨年会員全員に
 配布していた冊子「真宗の儀礼」を
 中心に話し合い法座を行いました。久
 しぶりの話し合い法座で活発な意見
 交換が行われ、また、西念寺の住
 職に絡めをお願いし有意義な研修
 会でありました。山陰教区総会、研
 修会の参加、今年は山陰教区の当
 番で松江市で開催される第四連区
 研修会への参加、各寺の行事に積
 極的に参加と奉仕も事業計画に立
 て実施をしております。私達役員は
 今年度で終わりますが、二ヶ年交
 替で各寺に理事一名ずつ十名と監
 事二名で会長・副会長二名（一名

神門組門推協の活動

神門組 乗光寺 安部賀就

本年は、親鸞聖人七五〇回大遠
 忌神門組ご消息披露、お待受法要
 があり、一生一度のご縁にめぐま
 れ、運営のお手伝いをさせて頂いた
 けた事は、私達にとつて大きな喜び
 でした。

神門組門推協の特徴的な活動の
 ひとつに、ご住職方との意見交換会
 があり、相互にとつてコミュニケーション
 ションを図るいい機会になっていま
 す。また、各地域で門推員が中心
 になって、様々なボランティア活動
 が展開されています。これ等の活動
 が、社会に「開かれた浄土真宗」の
 礎のひとつになればと願っています。
 しかし、会員の高齢化に加え、
 今年度は組連研が実施されず、新
 入会員がありませんでした。来年度
 は、組連研が実施され、多くの方
 の中央研修への参加を期待したい
 ものです。 合掌

編集後記

▼会報「ともしび」第八号を
 お届けします。皆様よりたく
 さんの寄稿をいただきました。
 て、ありがとうございます。
 ▼今年度も続々と門徒推進員
 さんが誕生しています。昨年
 十一月末日時点で二十七名の
 新規登録がありました。

▼九月に開催された「第四連
 区門徒推進員研修協議会」に
 は総勢一三六名（教区内六七
 名）さらに教区内寺院より八
 名の住職坊守の参加をいただ
 き、盛大に開催することがで
 きました。ありがとうございます。
 ました。

▼親鸞聖人に「顕浄土真実教
 行証文類」と題された全六巻
 の大部のお聖教があります。
 この「教行証」というお言葉
 について、教とは人生の方向
 が定まるということ、行とは
 その方向に向かって歩み始め
 るということ、そして証とは
 それを証（あかし）していく
 こと伺いました。行証が伴わ
 なければ、教は単なる知識と
 どまってしまふのだそうで
 す。
 ▼変化球のような味わいで
 す。なるほどと思ひました。